

ランゲル君を破壊する石油系 界面活性剤

健康な美肌をめざして…



NPO法人 日本免疫美容協会

理事長 島野孝子

7

前号でランゲルハンス細胞、ランゲル君が外部からの侵入に対する見張り役を果たしていることを紹介しました。ラ

手立てを指令します。

この一連の流れを免疫系といって、いま医学界でも注目されています。肌免疫においてランゲル君は見張り役として重要な役割を担っていますが、ランゲル君が正常に働かなくなると、いろいろな症状が現れるのです。

ではランゲル君はどういった時に正常に働くのでしょうか？

いくつかの原因が考えられます


が、なかでも化粧品に配合されている界面活性剤が大きな原因です。とくに石油系の界面活性剤は皮膚への

浸透力が強く、しかも台所洗剤を見ても分かるとおり、脂を溶かす性質があります。

ランゲル君の表面は、「リン脂質」という脂成分でできているので、界面活性剤がランゲル君の手（レセプター、異物を感知する突起）に触れると、一番大切な部分を溶かしてしまいます。そうすると、ランゲル君の感知する機能が破壊されます。

ランゲル君の感知する機能が損なわれると、異物が侵入しても、そのことが司令塔の脳に伝わりません。侵入したウイルスや細菌、また皮膚の炎症などは放っておかれることとなります。その結果、症状が悪化します。肌トラブルはこうして発症します。

ランゲル君の機能を衰えさせる原因はもう一つあります。それは次号で紹介いたします。



界面活性剤によってランゲル君の手（レセプター）が損なわれ…

ンゲル君が正常に働いていけば、外部からの侵入者を感じ、司令塔である脳に報告し、脳は侵入者を退治する

が、なかでも化粧品に配合されている界面活性剤が大きな原因です。とくに石油系の界面活性剤は皮膚への